

ムーンショット型研究開発制度に係るビジョナリー会議(第4回)委員提出資料

令和元年7月31日

ムーンショット型研究開発制度に係るビジョナリー会議(第4回)

北野委員提出資料より

「ムーンショット・プロジェクトの多くは達成度5割から8割の段階で行き詰まりを見せるが、最終目標達成への突破口は、ムーンショット・プロジェクトとは全く関係のない、一見役に立たない研究の成果からもたらされる」

アポロ計画との違い:

- (1) より長期的目標(サイエンスの比率が高い)
- (2) 社会変革を伴う必要がある目標が多い



- (1) 人文社会科学や行動心理分野の成果
- (2) 材料、化学や生命科学等の基礎科学の進展
- (3) アート&デザインの大きな貢献

ムーンショット・プロジェクトの成功のためには、目標を限定しない創発的研究を可能とする研究費並びに研究環境の改善に、ムーンショット・プロジェクトに投入するのと同額以上の資金投入を多様な資金源(公的資金、寄付、産学連携など)から実現する政策が必要

【(一社)日本経済団体連合会からも同様の提言】

- ・ 政府研究開発投資については、これまでの「選択と集中」から「戦略と創発」への転換が求められる。
- ・ Society 5.0の実現という国家的課題解決等を目標とした「戦略的研究」と、特定の課題や短期的な目標設定を行わず、多様性と連動性によって破壊的イノベーションの創出が期待される「創発的研究」の2つに注力すべきである。

出典: Society 5.0の実現に向けた「戦略」と「創発」への転換 ～政府研究開発投資に関する提言～ (2019年4月16日一般社団法人日本経済団体連合会)